

メールデルフォールトの化学講義—

芝 哲夫

2. オランダ海軍と日本への技術移転 1855–1861
A. A. Lemmers
3. 西洋科学技術の教師ヤン・カレル・ファン・
デン・ブルック博士 H.J.Moeshart
4. 佐賀藩の近代科学技術 長野 暹

シンポジウム3:

ポンペ・ファン・メールデルフォールトによる 近代西洋医学教育の創始

1. ポンペ・ファン・メールデルフォールト：
日本最初の医学校の創設者 Harmen Beukers
2. ポンペのオランダ語講義ノートの研究
相川忠臣, Harmen Beukers,
酒井シヅ, 山之内卯一
3. ポンペの薬学と化学 芳本 忠
4. オズーの人体解剖模型と日本
月澤美代子, Wolfgang Michel
5. 松本良順(1832–1907): ポンペ・ファン・
メールデルフォールトの協力者 酒井シヅ

一般演題

1. ‘バンクレアス’という器官名と前後の文章
をアリストテレスの動物誌に挿入したのは
誰か? 土屋涼一
2. 近世日本へのイエズス会系宇宙論の伝播と
流布 平岡隆二
3. 加賀藩医師・伍堂卓爾と蘭医スロイスとの
関係 金谷利勝
4. 古代日本の説話に見る被膜児 内野 花
5. 平野重誠『病家須知』(1832)にみる自然治
癒力の概念 平尾真智子, 大道寺慶子
6. ポンペの地球環境科学: 鉱物, 気象, 海水
浴と牛乳飲用の奨励
塚原東吾, 財城真寿美, 中上郁, 大沢真澄
7. 日本の衛生行政における細菌検査の導入と

普及 横田陽子

8. オックスフォード大学における科学的医学
及び医学教育の発展 1858–1904年
姫野友紀子
9. マルコ・マリ・ド・ロ神父が助産師育成に
使用した人体模型
大石和代, 中尾優子, 長岡清子, 加藤奈智子
10. 公衆浴場における禁止行為及び入浴者制限
の変遷 川端美季

英文と和文の報告書を出版する時、改めて詳しく報告する。

3. 西洋医学教育発祥150年記念日本医史学会、 日本薬史学会、洋学史学会合同大会

2007年11月11日には、長崎大学医学部記念講堂とポンペ会館で、平成19年度日本医史学会秋季大会(会長 相川忠臣)・平成19年度日本薬史学会年会(会長 芳本忠)・2007年度洋学史学会秋季大会(会長 Harmen Beukers)の合同大会が開催された。

初めての日本医史学会、日本薬史学会と洋学史学会の三学会同時開催であり、シンポジウムは「長崎游学」、「長崎と薬」、「本草から植物学へ」、「薬学教育の黎明」の4つ、市民公開講座:「長崎ゆかりの近代科学と医学に貢献した偉人達」であった。洋学史学会の特別講演はA.A.Lemmers氏の「The Nederlandsch Stoomboot Maatschappij Fijenoord and its Dealings with Japan (1856–1867)」, ブライアン・パークガフニ氏の「長崎居留地と西洋医学」であった。

新しい長崎歴史文化博物館で「勝海舟と幕末長崎」が11月3日から開催され、オランダで発見された長崎製鉄所図面も展示された。

平成19年度日本医史学会秋季大会・平成19年度日本薬史学会年会・2007年度洋学史学会秋季大会の合同大会の内容は下記の通りである。

平成 19 年度日本医史学会秋季大会
 平成 19 年度日本薬史学会年会 合同大会
 2007 年度洋学史学会秋季大会

プログラム・抄録集

会 期 平成 19 年 11 月 11 日 (日)
 会 場 長崎大学医学部 記念講堂, ポンペ会館
 長崎市坂本 1-12-4
 会 長 相川忠臣 (平成 19 年度日本医史学会秋季大会)
 芳本 忠 (平成 19 年度日本薬史学会年会)
 Harmen Beukers (2007 年度洋学史学会秋季大会)

市民公開のシンポジウムと講座

A 会場：長崎大学医学部記念講堂

8:40-8:50 開会の辞 相川忠臣 平成 19 年度日本医史学会秋季大会会長

8:50-12:20

シンポジウム A 「長崎游学」

一般公開 A 会場

8:50-10:30

1. 長崎に游学した中津人 川寫真人 (川寫整形外科病院)
2. 加賀藩医師・伍堂卓爾の長崎游学について 金谷利勝 (石川工業高等専門学校名誉教授)
3. 中島宗仙の筑紫行雑記 ~文政 6 年一医師の長崎游学旅行記~
 ○中島洋一 (医療法人洋友会中島病院), 松村紀明 (千葉大学非常勤講師)
4. 三浦梅園の長崎紀行 (「帰山録草稿」より) 佐藤 裕 (誠心会井上病院)

(休憩 10 分)

10:40-12:20

5. 長崎に游学した眼科医達 園田真也 (医療法人明星会園田病院)
6. 佐藤舜海 (尚中) の長崎游学の意義 酒井シヅ (順天堂大学)
7. 中島治平とハルデス 吉田 忠 (東北大学名誉教授)
8. 中国から長崎に来た医師たち 郭 秀梅 (順天堂大学)

12:20-13:10 昼食 50 分

13:10-14:50

シンポジウム B 「長崎と薬」

一般公開 A 会場

- | | |
|------------------------------------|--------------------------|
| 1. 舶来の珍奇生薬 | 遠藤次郎 (東京理科大学薬学部) |
| 2. ツェンベリーと水銀水 | 高橋 文 (日本薬史学会) |
| 3. 長崎除薬種と幕府医官 | 町泉寿郎 (二松学舎大学東アジア学術総合研究所) |
| 4. 安政5年コレラ流行の際のボンベの建言書から芳香散の触書までの間 | 荻原通弘 (東京都北区) |

15:00-17:15

シンポジウム C 「本草から植物学へ」

一般公開 A 会場

15:00-16:15

- | | |
|----------------------|------------------|
| 1. 日本独自の本草学の誕生について | W・ミヒェル (九州大学) |
| 2. シーボルトと桂川甫賢, 宇田川榕菴 | 山口隆男 (熊本大学) |
| 3. 『泰西本草名疏』から『草木図説』へ | 遠藤正治 (愛知大学非常勤講師) |

16:25-17:15

- | | |
|--------------------------------------|------------------|
| 4. 19世紀における植物研究と商業園芸 | 平野 恵 (文京ふるさと歴史館) |
| 5. 幕末期, 本草学者の果たした役割 — 小笠原開拓事業と阿部櫨斎 — | 平野 満 (明治大学) |

17:15-18:00 夕食 45分

市民公開講座

A 会場：長崎大学医学部記念講堂

18:00-21:00

長崎ゆかりの近代科学と医学に貢献した偉人達

A 会場

- | | |
|------------------------|-----------------|
| 1. 相良知安とドイツ医学 | 相良隆弘 (相良知安曾孫嫡子) |
| 2. 長与専斎 — 医療体制確立への闘い — | 外山幹夫 (長崎大学) |
| 3. 長井長義の長崎日記 | 渋谷雅之 (徳島大学) |
| 4. 佐野常民と海軍伝習 | 福岡 博 (佐野常民記念館) |
| 5. 本木昌造 — 複製技術の展開 — | 若木太一 (長崎大学) |
| 6. 上野彦馬のインテレクチャルヒストリー | 姫野順一 (長崎大学) |

平成19年度日本医史学会秋季大会 プログラム

B会場：ボンペ会館1階

8:40 開会の辞 ウォルフガング・ミヒェル 平成19年度日本医史学会秋季大会副会長

一般演題

8:50-10:30

1. サンタ・マリア・デラ・スカラ病院における捨子養育活動
柳澤波香（津田塾大学・青山学院大学）
2. 『宇治拾遺物語』の中の身体に関わる表現
計良吉則（順天堂大学）
3. なぜ『ドン・キホーテ』なのか？
小曾戸明子（日の出ヶ丘病院）
4. ホメオパシー患者が読んだ疾病記事：『ライプツィヒ・ホメオパシー民衆雑誌』の分析（1871-1939）
服部 伸（同志社大学）
5. 口述筆記の医学書に見られるオノマトペ —『蕉窓雑話』を中心に—
守山恵子（福岡女学院大学）

（休憩 10分）

10:40-12:00

6. 「関格」について
小高修司（中醫クリニック・コタカ）
7. 谷川家処方集に見られる脚気治療処方箋
西井易穂（人・健康・医の研究所）
8. 間宮林蔵の死因
杉浦守邦（京都蘇生会総合病院）
9. 幕末沼津藩士の日記にみる養生～『水野伊織日記』の分析
鈴木則子（奈良女子大学）

（昼食 70分）

13:10-15:10

10. 佐賀藩医馬郡元孝の戊辰戦争従軍記
青木歳幸（佐賀大学）
11. ボンペと榎本武揚
稲木静恵（日蘭学会）
12. 緒方惟準（洪庵嗣子）のボンペ・ボードイン・マンسفェルトとの交流
中山 沃（川崎医療福祉大学）
13. 市場・共同体—明治期コレラを再考する
鈴木晃仁（慶應義塾大学）
14. 明治11年「刀圭雑誌」第1号にみる血管結紮術
田中祐尾（医療法人田中医院）
15. 旧満洲国における医学標本の収集について
末永恵子（福島県立医科大学）

15:10 閉会の辞 相川忠臣 平成19年度日本医史学会秋季大会会長

2007年度洋学史学会秋季大会 プログラム

C会場：ポンペ会館1階

8:40-8:45 開会の辞 ハルメン・ボイケルス 2007年度洋学史学会秋季大会会長

一般演題

8:45-10:25

1. ポンペの眼科講義録について ○山之内外一 (大分視能訓練士専門学校),
相川忠臣 (長崎大学), Harmen Beukers (ライデン大学)
2. ポンペの地学への関心 ―日本産出鉱物コレクションを中心に―
○大沢眞澄 (東京学芸大学名誉教授), 塚原東吾, 財城真寿美 (神戸大学国際文化学部)
3. ポンペ種痘書の普及について 田崎哲郎 (愛知大学)
4. 牛痘種痘法の普及に果たしたシーボルトの役割 古西義磨 (橋本まちかど博物館)

(休憩 10分)

10:35-11:00 **Special Lecture** Chairman Harmen Beukers

The Nederlandsch Stoomboot Maatschappij Fijenoord and its Dealings with Japan (1856-1867)

A. A. Lemmers (The National Institute for military history, the Netherlands)

一般演題

11:00-12:15

5. 上野俊之丞と「砲家秘函」 八耳俊文 (青山学院女子短期大学)
6. 錦絵になったお雇い教師 T.H. ヨングハンス 加藤詔士 (名古屋大学)
7. 西洋科学と宗教と芸道 ―未生流花道伝書に見る洋学の影響―
井上 治 (京都大学大学院文学研究科)

(昼食 55分)

13:10-14:00

8. 中村雄吉訳著の3部の検証
「普語箋 (上下)」 「独逸文典直訳 (カドリー著)」 「英独和 (語と会話)」
金谷利勝 (石川工業高等専門学校名誉教授)
9. 長崎の洋学が生んだ司法官・名村泰蔵 長沼秀明 (明治大学)

(休憩 10分)

14:10-14:50 **特別講演** 座長 相川忠臣

長崎居留地と西洋医学

ブライアン・バークガフニ (長崎総合科学大学)

(休憩 10分)

15:00-16:15 **シンポジウムC** 「本草から植物学へ」

A会場 市民公開

17:15 閉会の辞 姫野順一 2007年度洋学史学会秋季大会副会長

日本薬史学会 2007 (平成 19) 年会 プログラム

D 会場：ポンペ会館 2 階

開会 (8:40-8:50) 日本薬史学会 2007 年会 事務局長 黒田直敬
 開会の辞 日本薬史学会 2007 年会 会長 芳本 忠
 挨拶 日本薬史学会 会長 山川浩司

一般講演 午前の部・1 (8:50-10:30) 座長 黒田直敬

- 8:50 1. 「呉普本草」に採録されている薬物 塩原仁子 (昭和大薬学部)
 9:10 2. 薬師如来像への日本人の祈り 奥田 潤 (名城大薬学部)
 9:30 3. 「済生卑言」: 石見銀山の治病対策と用いられた処方について
 成田研一 (島根県済生会高砂病院・薬局)
 9:50 4. 医と薬の相克 — Apothecaries Act(1815) の成立を巡って
 柳澤波香 (青山学院大・津田塾大)
 10:10 5. 何故, 日本で (生薬の) 修治が省略される傾向にあるのか 山下嘉昭 (㈱ハートフェルト)
 10:30-10:40 休憩

一般講演 午前の部・2 (10:40-12:20) 座長 富永義則

- 10:40 6. 版本牛療治調法記に関する考察 ○宮本如奈 (同志社大文学部),
 畠山有理 (長崎大薬学部), 高倉弘士 (立命館大大学院社会学)
 11:00 7. 江戸安政期書写版「牛医書」に関する考察 ○高倉弘士 (立命館大大学院社会学),
 畠山有理 (長崎大薬学部), 宮本如奈 (同志社大文学部)
 11:20 8. 明治初期に作られた「牛病新書」に記載されている薬品に関する考察
 ○白井一城 (北陸大薬学部), 畠山有理 (長崎大薬学部)
 11:40 9. 星 一の著作を追って 三澤美和 (星薬科大)
 12:00 10. 星 一によるわが国初のキニーネ製造と輸出事業
 ○山 朝江 (やま内科胃腸科医院薬), 三澤美和 (星薬科大)
 12:20-13:10 昼食・休憩

一般講演 午後の部・1 (13:10-14:10) 座長 佐々木均

- 13:10 11. 明治初期の衛生化学と足尾鉍山鉍毒事件 ○末廣雅也, 川瀬 清 (日本薬史学会)
 13:30 12. アミノ酸系医薬品開発 50 年の変遷
 ○荒井裕美子, 榊原純子 (㈱日本医薬情報センター), 松本和男 (日本薬史学会)
 13:50 13. 薬効評価の三「た」論法再訪 — EBM と best case project の時代を背景に—
 津谷喜一郎 (東京大大学院薬学系)
 14:10-14:20 休憩

一般講演 午後の部・2 (14:20-15:20) 座長 佐々木均

- 14:20 14. 日本のドラッグストアの歴史に関する一考察
 —医薬品販売の変遷とドラッグストアの役割—
 ○佐藤知樹 (日本医歯薬専), 串田一樹 (昭和薬科大)

14:40 15. 学校薬剤師制度の今日的意義

○宮本法子(東京薬科大薬学部), 高橋 文(日本薬史学会)

15:00 16. 日米欧薬史学会ウェブサイトの比較

○五位野政彦(東京海道病院薬剤科), 宮崎啓一(三栄化工株)

シンポジウムD「薬学教育の黎明」(15:20-17:00) 座長 中島憲一郎/山川浩司

15:20 17. 日本における薬学, 薬剤師が誕生してから150年 日本薬史学会会長 山川浩司

15:40 18. 江戸時代の薬物教育 大阪大学医学部 米田該典

16:00 19. 明治・大正の薬学教育の中の化学教育 長崎大学環境科学部 富永義則

16:20 20. 医薬の科学から見た日本の薬学 日本薬史学会 川瀬 清

16:40 21. 長崎における薬剤師会の設立と活動 長崎市薬剤師会会長 永田修一

閉会の辞 日本薬史学会2007年会 副会長 中島憲一郎

例会記録

平成20年1月例会 平成20年1月26日(土)

順天堂大学医学部9号館2階8番教室

1. 佐藤尚中の訳書とその影響 酒井シヅ
2. 大隈重信と日本の精神衛生運動 岡田靖雄

平成20年3月例会 平成20年3月22日(土)

順天堂大学医学部9号館2階8番教室

1. 画像で見る脈診法 宮川浩也
2. テレビドラマ「ER」にみるアメリカの社会と医療の現代史 渡部幹夫

例会抄録

江戸時代における鍼灸医学

—その思想の沿革—

Vigouroux MATHIAS

日本の鍼灸医学の現状を, 特に活動している流派についてみると, 特徴といえば, その多元性であろうと思う。しかも, その多元性は日本の医療のあらゆるレベルでも見られるようである。現代の日本で鍼灸の伝統を教える勉強会や学派に見られる多元性を知るためには, 先ず江戸時代まで遡り, 当時におけるその思想や学派の多元性について調べる必要があると考えている。それは, 独自

化した日本の鍼灸医学が, 江戸時代を通じて中国医学から離れて, 日本化の過程を通して独特なものとなり隆盛したと言われているからである。江戸時代の鍼灸医学に関する学派についての整理をして, その思想の沿革を述べてみると, 次の特徴が現れる。

- ①意斎流や杉山流を中心としながら, 中国の理論・針術から離れた流派と, 中国の理論は温